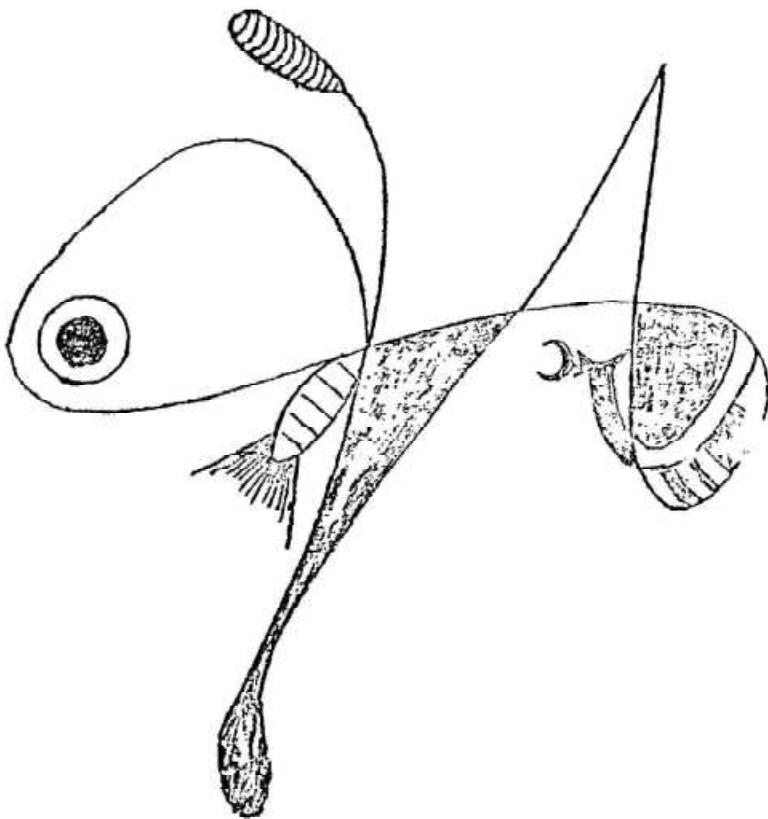

十才志

Vol.3 No.9

1953年9月



倉敷昆虫同好会

目 次

		頁
★ 我が家の庭に於けるカイガラムシ及び アリと気温との関係について	能 勢 澄 英 子	7
【おとしみみ】		
○ 水島地区にシルヴィアシジミ	船 越 俊 平	7
○ 倉敷のクロツバメシジミ	船 越 俊 平	7
○ クロオビサルハムシ倉敷では黒田に普通	小 野 洋	7
○ ホノハシミヨウ羽島山に多産す	広 瀬 義 躬	7
○ 案外少ないブカボシテントウ	小 野 洋	8
○ 大山にゴウラムオオギ、ミハシ産す?	船 越 俊 平	8
○ 蝶の初見記録(1953年前半期)一節	高 瀬 義 躬	8
○ ウラジロミドリの一羽性?	小 野 弘 益	8
◎ 足守町竜泉寺周辺の蝶を巡つて	小 野 弘 益	9
【幼 稿】	旗 森 郁	10
会 員 消 息		13
締 集 後 記		14

我が家の庭に於ける カイガラムシ及びアリと 気温との関係について

津山市立東中学校
能勢登美子

I. 始めに

私の家の庭にあるカシの木が真黒くす、が着いたようにほつているので今までは、煙突の側にあるからだろうと思って気にもとめず通していましたが、昭和26年8月、枝を切る時側でみているとアリがたくさんいるので、尚よく見るとカイガラムシが一杯ついていました。そこで私は他の木を多く調べてみました。それによりオオと虫のついてた木が9種類ありました。これは面白いと思ひ(時期としては少しおそいと思つたのですが)、早速今まで研究して「イセリヤカイガラムシ」と比較観察をする事に致しました。尚、虫の名は高橋良一先生に教えていただくました。

II 庭木に寄生するカイガラムシ類

	寄生している木の名	虫の名	寄生している位置
1	カシ	トビイロマルカイガラムシ カシマルアブラムシ	葉のうら及び葉 枝・幹
2	オランダ	オオリタフスカイガラムシ	葉のうら、枝、幹
3	ラシ	ツタコナシラミ	葉のうら
4	ツタ	トビイロマルカイガラムシ ツタコナシラミ	葉のうら及び葉 葉のうら
5	サカサ	オリブカタカイガラムシ	葉のおもて、枝、幹
6	ササ	タゲフクロカイガラムシ タゲシロウカイガラムシ	葉のつり根 ふし

	寄生しているホの名	虫の名	寄生している位置
7	ゲツケイジユ	トビイロマルカイガラムシ ルビロウカイガラムシ	葉のうら及び表
8	ミカシ	イセリヤカイガラムシ ヒラカタカイガラムシ	葉のうら、枝、幹
9	ナス	オオワタフキカイガラムシ	葉のうら、枝、幹
10	エダマメ	オオワタフキカイガラムシ	葉のうら、枝、幹

② サカサのカイガラムシ

★オリーブカイガラムシ

- 色 ねずみ色、赤紫色
- 形 
- 大きさ 肉眼で見えぬ位 1mm~2mm 3mm~5.5mm位まで、葉外早く成長する。どれが成虫で、どれが幼虫かわからない。

背面



③ カシのカイガラムシ アブラムシ

★カシマルアブラムシ

- 色 赤茶色にぴかぴか光っている。黒茶色のすくけてつやの古い今。
- 形 丸くて中程がふく、ぼつている。
- 大きさ 3mm位
- 寄生の位置 枝、幹

横面



手でつぶしてみるとかさかさぼつていて、がらがらんとであるが、時々赤茶色の汁を出すのがある。これが生きているらしい。

成虫幼虫の別は出来后才がだが、観察中に幼虫らしいものは発見出来た。針でついた位の赤茶色で、枝のやわらかい部分についている。

動くことは、イセリヤと同じこと。

★トビイロカイガラムシ

- 色 ねずみ色
- 形 丸くて中程が高くぼつている。
- 大きさ 1mm位~1.5mm
- 寄生の位置 葉の裏及び表

横面



背面



この虫がくっついていゝ葉は次第に葉の色が黄色く変つて行く。虫のついていゝ部分から葉緑素が次第にうすくぼつて黄色の斑痕が次々出来て萎しひぼり模様のようなものである。

★カシマルアブラムシ

ピンセットでつぶつてみたりすぐ取れた。しやりしやり者がして粉になつて

しおつた。虫を頂つた枝は幹の表面に虫の形が着白く残っていた。

㉔ ラン・ツタのカイガラムシ

★ツタコナジラミ

- 色 白い色、からは白
- 大きさ 1.5mm位 幼虫・成虫の区別は分らぬ。
- 寄生の位置 葉のうら。
- 形 (右の図参照)
- 葉の裏を見ると白い粉がついているようです。

ツタコナジラミ
のから

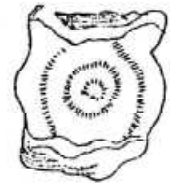


㉕ ゲツケイジュのカイガラムシ

★ルビロウカイガラムシ

- 色 赤紫色
- 形 ミカンワタカイガラムシによく似ている。
- 大きさ 針でついた位 5mm〜6mm
- 寄生の位置 葉の裏、枝

背面



㉖ ナス・ナンテン・エダマメのカイガラムシ

イセリヤと大体同じ、大きさに於てこの方が倍位の大きさとなる。

㉗ ミカンのカイガラムシ

★イセリヤカイガラムシ

(発見時) 幹に小刀で傷をつけておいて糸で印をつけておき、カイガラムシの幼虫が切口へ汁が出るのでそこへ移動すると思つて観察してみたら移動はしなかつた。

★ヒラカタカイガラムシ

- 色 あめ色、すき通つて見える
- 形
- 大きさ 5mm〜3mm
- 寄生している位置 葉の裏

背面

腹面



はじめ発見後3・4日はあめ色だったが10日後

たつと、こい、えんじ色に変わつていた。その微葉がおちたためわからぬ。

㉘ ササのカイガラムシ

★タケフクロカイガラムシ

- 寄生の位置 葉のつけ根

タケフクロ
カイガラムシ

背面



タケシロウ
カイガラムシ

腹面



★タケシロウカイガラムシ

4 (127)

◦ 寄生の位置 ふし。

8月22日にみつけた、白い綿のような、物のふいたようなものは、多分ろう質物だと思われませんが、動いている幼虫のようなものは、白い真綿のようなものがはつきりわかる。

アリの数がたくさん居た。

この真綿のようなもの、中に幼虫らしきものがあるのと、いぼいぼのものがあつたが、これはどのように違つているのか？

(ふしに寄生しているもの)

8月25日、夜をはがして白い綿のようなものを引っぱって取つてみたら、幼虫はいちかつたが、黒茶色をしたものが出て来た。これが成虫だろうか。

幼虫が少いので、2匹か3匹、多いので、12匹、7匹、5匹とが居つて居る。

8月29日 白い綿のような物の中から黒茶色のものを出して調べてみたがはつきりしたことは解らないが、丁度、色も形もほしぶどうそっくりでした。

(紫の根元に寄生しているもの)

9月2日 白いろう質物の出来て、いぼいぼの印をつけておいて何日位したら寄生するかを見る。

9月13日 針の先でおした位の白いものが出来て居た。

9月16日 さ、の印をつけたものをみたら変化は、何もなかった。

9月19日 印をつけたのを見たら変りなし。気温が低くなり出すとあまりはんとまよしいいのはいいかと思う。

10月3日 察しなだけで、反つてろう質物が小さくなつて居る感じがした。

11日めにろう質物が出来た。

2週間位は同じ状態て居た。

だんだん小さく居つて行つて、12月には全くなくなつた。

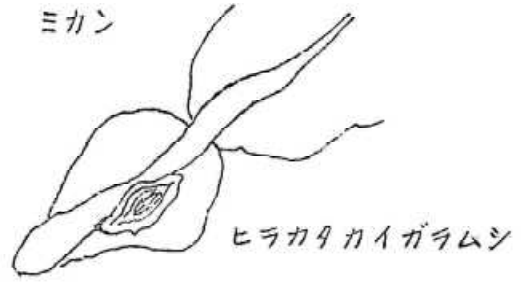
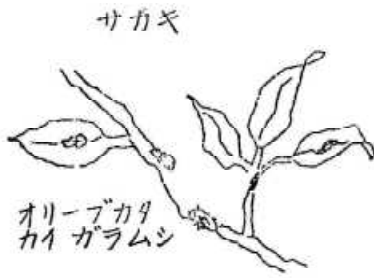
III カイガラムシとアリとの関係

アリの数の次第にハツて行く状態。(大体次第に入っているが10月30日から全部いなくなる)

	9月22日	9・25	10・3	10・8	10・15	10・25	10・30	11・7
ミカン	150匹	100匹	70匹	50匹	25匹	10匹	0	0
ササ	100匹	100匹	80匹	60匹	20匹	6匹	0	0
カシ	30匹	20匹	12匹	6匹	4匹	2匹	0	0
フンラン	20匹	13匹	10匹	10匹	5匹	3匹	0	0
サカキ	15匹	13匹	8匹	5匹	5匹	2匹	0	0
ゲッケイジュ	10匹	12匹	9匹	9匹	6匹	1匹	0	0
リン	2匹	3匹	1匹	1匹	0匹	1匹	0	0
ツタ	4匹	11匹	5匹	4匹	3匹	0匹	0	0

ササとミカンには虫が沢山寄生していたからアリも沢山居る。

◎ カイガラムシ類の標本



◎ 顕微鏡下の幼虫

ササに寄生している幼虫



◎ 顕微鏡下の成虫

カシの木 (成虫と見られるもの)



IV ササに於けるカイガラムシの繁殖状況観察

(とんとん繁殖する時の状況を記録すればよかったが、気がついたのがおそく残念でした)

ササで2匹カイガラムシの繁殖と季節との関係(全部で30本の小枝の集まるもの)

月 日	1.5mm~2mm以上	0.5mm~1mm以上	肉眼ではわからぬり虫めがねで見えたもの
9・7	6	12	12
・14	6	12	12
・16	6	12	12
・19	6	12	12
・23	6	12	12
・25	6	12	12
・30	6	12	12
10・3	6	11	13
・5	5	10	15
・8	5	10	15
・12	4	9	16
・15	4	8	17
・19	4	7	18
・22	3	6	20
・25	3	5	21
・30	3	4	22
11・2	2	3	24
・9	1	2	26
・13	0	1	28
・20	0	0	29
12・1	0	0	30

- 表によると10月3日まで繁殖もしなければへってしまい。
- 10月3日以後次第に気温が低くなるにしたがってE/E/Eへって行く。12月1日には0と停まっている。
- 繁殖とアリとの関係を存文でみる。ササの腐生虫の繁殖とやはり大に気温との関係のあることがわかった。

V す、病とカイガラムシ

す、病を惹起しているもの

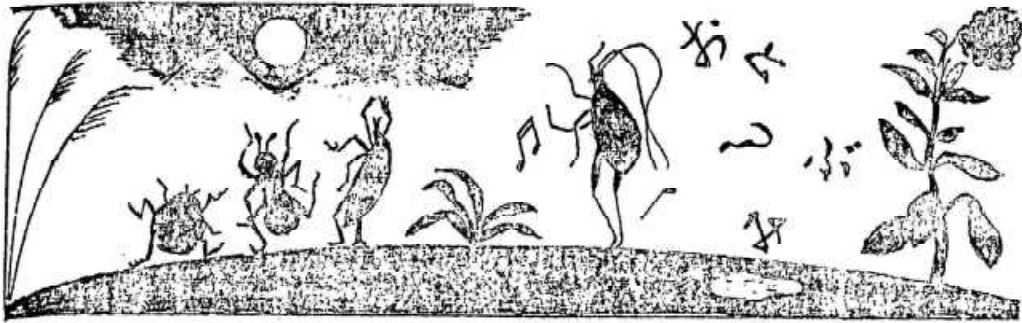
鹿舎 ツ。 ラ。 サカキ、 ミカン。 ササ。 カシ。 ゲッケイジュ。
 舎 舎 舎 中 舎 中

VI まとめ

以上で私の発表は終ります。これで研究が終ったのではありません。

- ササのその、冬越について
 - ミカンのその、没死期
- 新、興味があり調べて見たいと思います。

今後の研究で、アリとの関係が非常に関係の深いことがはっきりわかりました。(昭和27年3月14日)
 (註) 本論文は昨年6月1日大原産研で開演された第4回学術協会のコンクールに於て発表されたものであつて、前回は大原産研で開演したので恐らく査読特別賞を受けたもの(雑誌 尚本文に於ては若干の図が有りました)が発表の際に都合で残念ながら観覧されてはまじりました。(編集者)



No. 251

水島地区に シルウイアシジミ

道辺に於ける本種の発生が比較的少ないようですので報告します。昨1952年夏月に福田町第一福田小学校校庭に於いて本種 *Zizina otis alope* を一頭採集しました。以後福田町水島地区に於いては本種を何にも入れていません。可能性はあると思われず。(53. Ⅲ. 22)
(船越俊平)

No. 262

倉敷のクロツバメシジミ

本53年正月21日鶴形山のトンネル北口から、東へ折れて10米～20米の所の下水付近に多数発生しているのを発見しました。最初ヤマトシジミの雌だろうと思ったのですが飛翔している個体の後翅裏面に赤い斑紋が認められたので捕えてみたら本種でした。新鮮な個体でした。なおヤマトシジミも混雑していました。すずもし Vol. 1, No. 7 別冊の“鶴形山の昆虫”に収録してありますが宜しく報告しておきます。(53. Ⅲ. 22)
(船越俊平)

No. 253

クロオビサルハムシ 倉敷では黒田に普通

本種 *Cyaniris japonica* BALY クロオビサルハムシは、その翅鞘、黄褐色を呈し、基部と中央の後方に大きな黒紋を有する蝶麗種であつて、その分布は本州西南部、九州。外国では朝鮮、済州島、華北にも産する。九州では、普通に産すると云われている。

当倉敷に於ては、南部の山塊については未だ調査不十分で、はっきりした事はわからないが、他に於いてもまああまり普通ではない。ところが北部の山塊特に黒田の山道には毎年7～8月に比較的普通に発生しているのが見られる。こゝと云えどもやたらに多いという程度ではない。尚道郷では岡山の金山に発生をみている。

(小野 洋)

No. 254

ホソハンミヨウ 羽島山に多産す

羽島山のホソハンミヨウについては既に友野良一代が本誌 Vol. 1, No. 10

おとしぶみ

(おとしぶみ)にその産卵を帯じて居られるが、筆者は本年6月21日この地へ採集に赴き、短時間の内に10頭を採集して再確認する事が出来た。反野代も同種記されておられるのであるが、どの個体も全然産卵することなく産卵に歩行するのみでその歩行する状態は大型の蟻類に酷似し、産卵もとせすれば花同しがお座位であった。棲息地は羽島山の内でも極めて限られた地域であるが、そこでは多数の本種を目撃する事が出来た。なお、本種では念合部後半に赤褐色横紋を帯ぶ原型と黒紋の型との2型があるが、この地で採集したものはすべて後者であった。

(広瀬義躬)

No. 255

案外少ない アカボシチントウ

Chilocorus rubidus HOPE アカボシチントウは北海道、本州、九州に外国では満洲、蒙古、中国、ウズリー、ネパール、インド、セレベス、オーストラリア等に分布しているチントウムシであって、大抵3、4月頃から出現するものであるが、当倉敷附近では非常に少ない様様で、ほとんど見ることが出来ない。県下では備中高梁附近まで

北上すれば得られるが、あまり多くはない。(小野 洋)

No. 256

大山にゴースム オオキノコムシ産す?

53年7月28日大山に登山した際に大山寺附近の宿屋に採集した本個体を管ビンにおさめずした。現在 *Episcapha gorhami* LEWIS と断定出来ませんが一応お知らせしておきます。確認できたら改めて報告いたします。(33, 70, 22)

(船越俊平)

No. 257

蝶の初見記録 (1953年前半期) — 続 —

3月10日(於岡山市門田) ヤキヨウ1名
4月1日(於倉敷市瑞穂) モンキキヨウ2頭(性別不明はれど、いずれも黄色型)

6月6日(於倉敷市田之上) ルリシジミ(原型)1名、ホシミスジ(幼虫)

6月14日(於 倉 敷) ヤマキセセリ2頭 (広瀬義躬)

No. 258

ウラジロミドリ の一習性?

本年(1952)6月13日黒田に行つたときウラジロミドリの一習性ではないかと思われることを見たのでお知らせする。これと同じことが去年の6月10日

頃やはり同一場所で見られた。黒田の池の下の所に大きなクヌギ?があるがその下に笹が生えている。ここをガサガサやるとウラジロミドリが二頭も出て来て、簡単に採ることが出来た。しかもその笹は非常に低いものだから、蝶が偶然そこに止ったと考えるのはおかしい。その日は風もあまりなかったから(去年それを見た時はやはり風があったが)昼間そんな所にいるのは

おとしぶみ

おおかしい。聞くところによると、ウラジロミドリシジミはこのように習性が飄々者だとか。ウラジロもこれと同じ習性があるのではあるまいか。このように習性があるので紫外音が知らない所に飛出しているのかせしめたい。皆でよく調査したいものだ。なお二頭とも雌であった。(水野弘造)



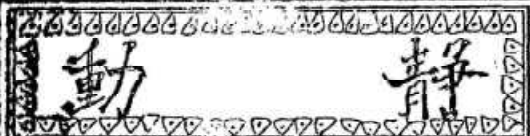
足守町竜泉寺附近 の蝶を追って

水野弘造

6月11日吉備線高松駅下車、バスで船荷山へ行った。日本三大船荷だけあって平日とは云つてもかなりの人が行っている。船荷山を登り足守側において竜泉寺に向つた。まずラングネヨウを採集、スジグロナヨウが多い。竜泉寺池の辺で雑木から何か白い蝶が飛出したのを見た。見るとウラブマダラシジミだ。網は腐さそうだが、枝がじゃまになって困る。しかしどうしても採らなければならぬ。勇気を出してバサッとやつたがやつぱりすきまから逃げられた。そして蝶のような飛び方で池の上を向うに飛んで行った。向うの枝の葉にとまった。池の中の水の匂い

所をそれと走つて行つたが、土がやわらかくて足くびの所までうまつた。白い運動ぐつは茶色にほつた。それでせどんどん走つて行つて蝶のとまった枝の下に行き上を見上げると茶に白い羽をたたんでじつとしている。どきどきする胸をおさえてそっと網を差出してすくった。今度はじまほ枝が腐かかったので茶に濡れた足下に気がつく。もう10cm足を前に出しにら谷川にすべり落とすところだったのでヒヤッとした。まずこれで第一の収穫だ。竜泉寺附近ではヒヨウモン類とモンシロケヨウが多い。モンシロは樂養不長湯の池が小さい。附近の池に出て見ると、ヨ

(13頁へつづく)



9月30日
倉敷昆虫同好会
編集部

水野弘造君蝶の部で1等

第1回中四国地方昆虫標本競技会開かる

池田牧場生物学研究
科本部、岡山県教育委
員会、岡山県高等学校
理科協議会、岡山県科
学教育研究会、山陽新
聞佐佐木氏の第1回中四
国地方昆虫標本競技会
は池田牧場産動物園
で開催され、9月12日
より同月23日まで入選
及び出品標本展示会が
行われた。

- 脇本孝敏、
4等 林野中学校
津田卓士、津田隆造
5等 福造中学校
横田明文
5等 林野高等学校
宮坂隆之
5等 香川県三豊第一

- 中学校
岡正、
『甲虫の部』
1等 津山高専学校
有元克英
2等 雷中学校
山崎成子
2等 琴浦東中学校

- 脇本孝敏
3等 林野中学校
津田卓士、津田隆造
3等 久世中学校
有元 崇
4等 久世中学校
有元 英
4等 津山市第三小学校
全上？
4等 石井中学校
森安孝徳、前田勝也
5等 鴨方高等学校
生物クラブ
5等 大島中学校
二科理科部

広島昆虫同好会発足

H.I.C.通信第1号発行

原籍の部広島の大く
ましい獲物を物語るよ
うに、永らく影をひそ
めていた昆虫同好会が
遂に今強力を帯びて表
した。
会長に広島助教授鈴木
木正将理博、それに岡
山県会場で倉敷昆虫同
好会の会員でもある古
市栄一氏を初めとして
脇本洋光、山田栄規、
久保隆之、根ヶ山知弘
岡野幸雄、高山輝彦、
の諸氏が幹事を務めて
おられ、既に会員は50
名を越えている。この
中には広島の学生の方

と、早稲の公務員の方
が大勢を占めている。
事務所は広大理学部動
物学教室に置かれてい
るもようで、会費は半
年60円。今年の6月頃
発会式及び第1回例会
が開かれており、7月
には古市氏編集、久保
氏印刷で広島昆虫同好
会臨時紙報H.I.C.通信第
1号が発行されており、
これには鈴木正将理博
の発会の挨拶、古市氏
の自木山山麓採集記、
会員名簿が載せてある。
4頁のものであるが美
しい騰印印刷である。

近く会誌創刊号が発行
される。
中にはとせあれ、広
島昆虫同好会の発足は
倉敷の状況にとつても
この上ない喜びであつ
て、当会に少し敬意を
表すと共に心からの
お慶びを申しあげたい。
すぐお隣りの県でもあ
るので、今後いろいろ
と研究を行つていく上
に相互に協力が心懸と
なつてくるのは必然と
あるので、連絡を保ち
しっかりと年をとり合
つて進みたい。

- 入選者は次の様に居
つている。
『蝶の部』
1等 総社高等学校
水野弘造
2等 津山高専学校
有元克英
2等 川上中学校
博物同好会
3等 林野中学校
全上 岡大崎忠雄
3等 福造小学校
科学部有元
4等 雷中学校
山崎隆恵、山崎幸子
城守節子
4等 琴浦東中学校

5等 八束中学校
 科学部
 (総合得意) (カッコ
 には得意)
 1位(10)有元克英、2
 位(6)水野弘益、3位
 (6)脇本秀敏、4位(5)
 津田卓士、津田隆彦、
 5位(4)山崎威子、5
 位(4)博物同好会、7
 位(3)有元 隆、7位
 (3)井上 功、大崎忠雄
 7位(3)福渡小学教科
 部有志。
 特別出品として普通
 身町蠶織学園生物部の
 絹繭(見方は繭物取写
 の規則)があつた。
 尚大会役員の方には会
 長岡大農学部部長永友肇
 様、副会長池田敬博池
 田隆彦、菅原良岡山大
 学工学部、岡山大学小泉
 清心大工学部、農畜部
 役員有種、岡山県江川
 岡山市松永、昆虫同好
 会片山、昆虫同好会同
 好となつている。
 見わたしたところ祝
 儀的なめばしい標本は
 ありなかつた。どす
 がに入選者の方のそ
 れは虫標本もの方が多
 かつたが出品標本の中
 には厳選してないもの、
 ラベルが着いてな

いものなども若干み
 られたし、一般的に云
 つて標本の整理がいさ
 が充分でないように見
 受けられた。甲虫の部
 では同定のおやまりが
 かなり見られたし、蝶
 の部と云えどウススイ
 ロヒヨウモンモドキに
 ヒヨウモンモドキと記
 入したラベルがつけて
 あつたもの等が見受け
 られた。岡正氏の標本
 中にはクジマクサヨウ
 コヒオドンガを巻いて
 いたが、採集地を中西
 国地方とする昆虫標本
 と云ふ出品標本に因す
 る關係があつたはず
 ので疑念に思いラベル
 を見たところ、番号が
 記されており、それに
 合して採集地、採集年
 月日、採集者等を記入
 してあるはずの表が見
 当らなかつたが、後程
 その標本は交換によつ
 たものである事がわか
 かつた。表は箱の下に置
 いてあつたとのこと。
 菅原氏が那岐山で本年
 8月17日採集、コヒヨ
 ウモンモドキと同定さ
 れていた標本はウスイ
 ロヒヨウモンモドキで
 あつた。

倉敷市の比較的直ぐ
 で採集されているもの
 で、倉敷での未記録の
 もの或は記録の少ない
 のを2,3あげて見ると、
 八束中科学部の見島郡
 八束で本年8月10日採
 集のモンキアゲハ、鴨
 方高生物クラブの磯口
 郡で本年8月18日採集
 のキボシカミキリ、8
 月10日採集のヒラタク
 ワガタ、大島中二地理
 科の磯口郡大島村で本
 年8月28日採集のキボ
 シカミキリ、脇本秀敏
 氏の見島郡味野で本年
 6月20日採集のクマダ
 ラカミキリ等々である。
 有元氏採のクロカナ
 回を巻く度に感
 にはつてくる岡山博物
 同好会主催の生徒博物
 コングールは今年もそ
 の第5回が下記要領で
 開催される。本会会員
 諸氏もふるって参加
 下さい。
 ▲日時 昭和28年10月
 下旬(従来時間
 1人10分間)
 ▲申込 昭和28年9月
 20日(発表時

ラベルが着いてな
 ければ、
 原示会最終日の午前
 中であつたが既に標本
 もとりに来られていた
 出品者もあり、編者並
 も多忙で時間を限られ
 詳しく見る事が出来
 なかつたのは遺憾であ
 った。尚本研が最初の
 事ではあるし凡ゆる面
 で充分な用意が整わな
 かつたのは全くやむを
 得ない。会場が狭く、せ
 まく、従つて陳列が不
 手際となつて標本が比
 較的幅広く並べられて
 あつたりして、ながめ
 るのには一転車線がな
 いが、少くとも詳しく

第5回学徒博物コンクール

十月下旬に大原農石研で

旨20部提出)
 ▲資格 小学校、中学
 校、高等学校
 の生徒に限る
 ▲対象 動物、植物、
 地学に関する
 科学的な研究
 ▲審査 岡山博物同好
 会の顧問捨鉢
 博士に依頼す
 ▲賞金 一万円、最高
 賞に大原廣を
 贈る副賞多し

見ようと努めると若干不便であつた筈の類が感じられた。次回からはこれらの点について考慮がはらわれ希望が実現であらう。とにかつこのようは

種類の催しは中四国地方の一般的な昆虫研究の振興にも、又理科教育の面からせ大いに役立つものであらし几ゆる虞で甚だ有意義な催しと考えられるので、

本会としてこれの開催には全面的な賛意を表すると共に、今後毎年の行事として未だ十分に振展することを祈願したい。

中(岸)、又青森陸君(倉敷京平1年)のものもよく出来ていた。以上全部倉敷東中学校の人々であるが、自津友野両氏の出身校だけあつてはかたが盛人である。小学校ではこの間まで高谷先生のおら水田西様によいものがあつた。又今年も新たに倉敷市に合併した福田、庄内地区の学校の出品が多かつたし、この地方では藤越氏が教鞭をとつておられるのであろうか、そのが多いのが見受けられた。

山畑博明君見事金賞獲得

兼平謙治君も入賞

倉敷市児童生徒科学創作品展覧会開く

毎年夏休みが終ると開催される倉敷市、岡山県教育組合倉敷支部及岡山県科学教育研究会倉敷支部共催、倉敷市児童生徒科学創作品展覧会は今年もその第7回が9月18日より24日まで、倉敷市栗田町のつるぎ百貨店4階及び5階の会場で催された。この展覧会ではい

つも昆虫及び植物標本が出品物の大半を占めるが、今年もずいぶん多かつた。昆虫標本のうちの白眉と思われたいものは本会会員の山畑博明君のものであつて、

又入賞の兼平謙治君の標本も立派であつた。尾崎年彦君と此の又人はせき自脚邸代の後でつく人達である。この外会員ではないが銀賞の小原俊男君(倉敷家

倉敷の文化財巡り

岡山博物同好会の主催で

かねてから計画されていいた岡山博物同好会主催の「倉敷の文化財巡り」は、去る8月30日(日曜日)午前9時から予定どおり盛大に行われた。この日同好会の士およそ30名、倉敷市観光課の備バスの御援助によき大型の貸切バスで市外を縦横に疾馳。一同楽しい研究に一日を過ごした。倉敷中央病院の大

福室を区切りに影向の橋→倉敷レイヨン→浦津の櫻(昼食)→浮洲→阿知の藤→観音寺にて虫供養と云うコースで、佐藤晴明先生の御解説も指がはかどうに入つたもの、特に浮洲は菊の草跡で福介の倉庫が今もほおひく云々一を聞き、浦津の観音寺ヤガラゴシの中に存在するのを見せ一同大いに興味をか

分れた。出立後で出雲の安ちか行昇天を祈つた人々は大原崇徳館、倉敷考古館、倉敷民芸館、大原農研、倉敷天文台の見学には或は帰宅に三々五々散つて行つた。尚当日は倉敷昆虫同好会のメンバーでは青野、小野、近藤、友野、広瀬の綿芽達の外に中塚、水野、井手、清水、能登の諸氏の顔が見えた。

☆原稿募集☆
昆虫に關するものなら何でも結構、原稿は行方だけ原稿用紙に、そして原稿にして下さい。
☆会費の納入をお願いします☆

(9頁よりつづく)

ツボシトンボがいた。これは僕にははじめてだ。去年はこゝにハツキヨウトンボが沢山いたが今年はまだ時期が早いためか見あたりない。ベッコウトンボもいなかった。さうして下って雑木林に出た。とんとんたいて行くといふと黒い蝶が飛び出た。見るとウラギンシジミだ。昨年二、三頭採集したことがあるので今日は嗅はこれを採るのを目的としていたのであるが、二人はに前陣に出てくるとは思っていなかった。さうして採集したが実にそれだけだ。大いに蚊をよくしてそれから二頭を採集した。他にゼフィルスではミズイロオウガス〜3頭、ウラガミアカニルモス〜3頭、アカシ

(136) 13

シジミ1頭を見たのみだ。オオミドリはいなかった。池のほとりで寄物を食ってから、ウラギンシジミの交尾したのを採った。これは珍らしくはないが総社野附近では初めてのもののほので一寸うれしかった。枯木の束が道のそばにあつたのでよく見るとホタルカミタリがうじやうじやいた。その後ウラギンの産卵のを二見したがそれ以上採る気がしなかったので又元来た道を帰った。ここにいと云うヒヨウモンモドキはその日はついに一頭も見なかったが、私はかたりの収穫に満足しつながら船瀬山を下りて行ったのであつた。

◆ 会員消息 ◆

★ 新入会員

57 野口 弘

58 平田 信夫

★ 住所変更

42 黒田 祐一

38 船越 俊平



◆ 編集後記 ◆

まだまだ残暑が厳しいとはいえ、朝夕はめっきり冷え込んできました。コスモスは嬉しげに顔を並べ、ずっとなやみながら花つた日差の中にふらふらゆれて、くうーんと深いアカトンボを散らした青空の中にくっつきと浮かび上がっています。断崖頭上をさすめるクロアゲハの雄姿にも既に花に花をさすから遠くから迫り来る強い季節を感じさせるものがあるようですが…。でも一歩野外へ出て見るとなかなかにどうして日中の虫の世界もまだとてもにぎやかだし、たそがれ迫り来る頃の舞臺では名月にうかれ出た虫共がセレナーデを奏でています。虫塚にも異変があったか近頃はやりのいそがしいリズムが文面へて来る様な感じがします。

今月号は熊野登英子さんの論文、水野弘造君の採集記の外8篇のおとしぶみを載せました。又近頃いろいろ困難が多く、皆さんにお知らせしたいニュースが編集部の方へたどり着いたので助産婦を設け、これに集めました。最近編集係は祝賀に慶賀勉強にいろいろと多忙を極め、ために会誌の花行が遅れがちになり甚だ遺憾に思っております。皆様は御心配をおかけして真に申分けない次第ですがこれをお願いいたします。よろしく御協力のほどをお願いいたします。これから冬に向いますが、夏の間にたまった研究資料、楽しい採集記など山積している事と思しますのでどしどし御投稿下さい。ゴタツにあたりながら採集記を載せるのも又ひとしお楽しいものでございます。

すずむし第3巻第9号

昭和28年9月29日 印刷

昭和28年9月30日 発行

編集者 小野 洋

印刷者 小野 洋

発行所 倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所

作物害虫研究室内

倉敷昆虫同好会